



真夏の鍛錬（甲佐中学校）

うたごよみ
― 葉月 ―

〔短歌〕

米納三雄選

少しずつ私を壊しゆくごとく残り少ない歯を
医者は抜く
塚原 暁益
子燕の訪い来て部屋中飛び交わしチツチツと
鳴く挨拶のごと
本田富美子
教え子の喜寿祝ぐ席に招かれて握手を交わす
掌の温かき
松本ぬい子
信号を待つ暫くの刻を来てウインド叩く一羽
の雀
森田 房恵
いつまでも元気で無事の続くこと朝の祈りに
願いを込める
内田乃武子
庭の木のひとつひとつに思い有り共に生き来
し仲間にあれば
井上ユリ子
色付くを待ちて李を見に来れば早も鴉のつ
つき捨てゆく
上村 かず
雨上がり早苗田渡り吹く風に凶太き雨の降る
を忘るる
吉永由紀子
梅雨に入り洗濯物の乾かねば部屋のあちこち
服並びおり
上村やす美
舗装工事に道は剥がされ埃舞う昔の町に郷愁
の湧く
内山タミエ
田植え終え夫の手足の黒光り身体に染みた黧
章のごと
緒方 明美
今日もまた大売り出しの旗立てば通る人みな
眺めて過ぎる
赤星 延子
過ぎし日のアルバム開きわが顔に得意と失意
あるを仕分けす
渡辺 幸士

〔川柳〕

〔七夕〕

被災地も七夕祭りがんばって
被災地復興願いは走る短冊へ
被災地へ七夕様も宅急便
孫の文字褒めて短冊吊るす笹
五色の短冊五つの願い書きました
早 彦喜
伊豆野ヤエ
成松 松枝
緒方 瑞枝
北 仁子

〔困る〕

孫来る日 部屋を片付け腰痛む
国難に内輪もめでは困ります
土日就業喜ぶ人に困る人
シーベルト今年の夏を暑くする
布田 愛子
古閑チヨミ
林 雅之
渡辺 幸士

〔俳句〕

青葉風阿蘇高原に球飛ばす
昇る日に若葉の透けてゆれ止まず
梵鐘の音に目を覚ます梅雨の朝
雨に濡れ紫陽花見事七変化
川を見に何度も出たり梅雨の音
さりげなく惹かれて今日も青き踏む
高田れい子
堀田 孝恵
本田 信子
古田 幸子
田端 慶子
楠本 美鶴

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎ 096・234・1111（内線321）

ひとの動き (敬称略)

6月11日(土)～7月10日(日)

birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
緑町	赤崎 斗	男	龍彦 太彦
早川	堀 雪	女	達雅 幸成
有安	馬場 美	男	匠成 史
下横田	三浦 蓮	男	智学 勝
下横田	内田 里	男	
下横田	坂本 瑛	男	
田口	坂本 夏	女	

marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
上早川	岩永 一寿
宇城市	宮本 依里子
宇城市	元杉 謙斗
上揚	山下 真奈
上早川	本田 昭憲
長崎市	平 住 奈子
田口	福田 聡司
宇土市	山内 絵美
熊本市	本田 優司
上揚	増田 璃香
府領	長野 次郎
熊本市	北森 ユカ
熊本市	荒木 大介
小鹿	渡邊 真実
中横田	村田 全弥
大津町	石田 梨恵
船津	北野 翼
御船町	西山 静香
白旗	西田 智春
福岡県	梅木 亜紀子

condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
白旗	井芹 和子	83	孝雄
緑町	山本 里見	81	満
府領	児成 賢明	78	清一
坂谷	渡邊 進	103	進
津田	溝邊 恵	59	邦子
下横田	田上 末女	90	清一
糸田	塚崎 子	76	弘治
横田	田上 義人	93	悦子

Data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	5,406	4
女	6,086	△3
計	11,492	1
世帯数	4,190	1

平成23年6月30日現在

(町史編さんだより)

大正12年4月、御船鉄道の御船駅―甲佐駅が開通し、甲佐郷に初めて鉄道が通った。御船鉄道株式会社は、国鉄の春竹駅(後の南熊本駅)から、田迎、鯉、上島、六嘉などを経て御船駅までを大正5年に開業していた。当時鉄道は、交通の利便や経済の振興に不可欠なものとして、地域社会から熱い期待が寄せられていた。しかし、御船川架橋と妙見坂トンネル造営が難工事となり、当初の予定から大幅に遅れて竣工を迎えたのである。開通当日の「九州日日新聞」では、昼夜の祝賀会、甲佐駅の電飾、町内での仮装行列や青年団のマラソン大会など、盛り上がる地元の様子が見える。同年には、県立甲佐高等女学校(後の甲佐高)が開校していた。待望久し

近代に重要な交通手段として活躍した熊延鉄道



甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(34)～

甲佐に鉄道がやってきた

町史編集委員 栗谷 昌史 (近代)

い「鉄道」と「中等教育機関」がともに実現した同年は、甲佐郷にとって画期的な年であったと言えよう。鉄道開通によって、緑川の舟運中心から鉄道に主役が変わった。甲佐駅をはじめ、下早川、浅井に停車場がで

き、住民は気軽に熊本市へ行けるようになった。さらに、商用や観光で甲佐郷を訪ねる人も増え、やな場のアユは県内外に知られるようになった。昭和2年、御船鉄道は、熊延鉄道株式会社に変更された。将来は延岡(宮崎県)ま

で線路を伸ばすという壮大な意図が込められた。しかし、昭和7年に甲佐駅―砥用駅が開通したが、これ以上、線路が延伸されることはなかった。総延長距離は28.6キロ。熊延鉄道は、大正から昭和前期にかけて、上・下益城の重要な交通手段であったが衰退は早かった。戦後の道路整備によって急速に乗合自動車(バス)が普及したことに伴い、昭和39年に路線は廃止されバス路線を拡充し、社名も熊本バス株式会社に変更された。熊延鉄道の短い歴史は、甲佐郷の近代がいかに変化の激しい時代であったかを物語っている。

▼「甲佐町史」編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編纂係
☎096・234・3310

クラブ史上最多の2万5、000人がKKWINGに来場した、7月17日(日)、サッカーJ2のロアッソ熊本の公式戦「熊本県民サンクスマッチ」スタンドを赤く揺らす大歓声と拍手のうねりは、創設当初の閉散としたスタンドを思い返すと感慨もひとしお。「熊本に活力を」のテーマの下に、運営スタッフらの努力が実って大きな赤い花が咲き誇った真夏の夜。対して、特集の町公民館「出前講座」の盛況。高田館長が、出てこれない人に焦点を当ててひねられたアイデアの種。高齢化社会だからこそ企画で、地域の活力に対する新しい試みの種が咲かせた小さな花の数々。「点が線となり、線がつながって甲佐町を覆う大きな面になれば」と高田館長。思い描く花はそれぞれなれど、地域を元気にしたい思いは一つ。(C)

編集後記